

善導寺寺報～春のお彼岸号

以前、副住職時代に、当時のお檀家さん方に「お浄土のしおり」という題名で、寺報をお渡しした事がありました。種々の事情から、長年休刊になっていました。新たにリニューアルして、お届けする事になりました。ご参考出来るところがありましたら、宜しくお酌み取りの上、役立てて頂ければ幸いです。

善導寺侯雄

3.11 東日本大震災、…でお亡くなりになった方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

皆さんご承知の通り、3月11日に東日本大震災等の大きな震災が東北、新潟、長野の地域で起こりました。いまだに心に大きな傷を背負いながらも、一所懸命立派に生きている方々が沢山いらっしゃいます。私も、寺院関係のご縁で、石巻市の寺院さんのお話を直接聞くことができました。「復興」の合い言葉の下に、日々努力をなさっている反面、「復興」という言葉を聞くだけでも、瞬時に逝かれた家族・親族・知人・友人は「復興しない」ことを連想して、孤独にその苦しみを心中に押し隠さざるを得ないまま、ご生活を送られている方々が殆どだという現実だそうです。さぞおつらいことだろうと想像しますとともに、その方々が一日も早く立ち直られ、幸福でありますように、こころよりお見舞いを申し上げます。

1. 法然上人に「大師号」が下賜されました。

昨年(平成23年)は、法然上人の800年御遠忌の年でした。法然上人がお亡くなりになってから(1212年正月25日～旧暦)800年目の年という事です。皆さんはご存じだったでしょうか?日本のお坊様で只一人、法然上人という方だけが、50年に一度、遠忌の年に、宮中から「〇〇大師」という「大師号」という「おくり名」を戴いているのです。天皇陛下の大師号下賜は、去年の3月16日に宮内庁長官を経由して、京都知恩院の浄土宗のご門主に伝えられました。お名前は、「法爾大師(ほうにだいし)」です。(写真 法然上人)

2. これで、八番目の大師号となりました

これは日本の歴史上8回目です。法然上人の諡を正しく申し上げますと、「円光・東漸・慧成・弘覺・慈教・明照・和順・法爾大師」「えんこう・とうぜん・えじょう・こうかく・じきょう・めいしょう・わじゅん・ほうにだいし」となり、これだけ長い大師号をお持ちの方は、法然上人だけなのです。

3. 3月16日という日

3月16日という日、どういう日だったか、皆さんも思い出さずにはないと思います。そうです。天皇陛下が、異例にもテレビ放送をご利用して、私たちにはげましの言葉をのべになった、その日です。恐らく、「法爾大師」という諡をお決めになって長官に命じてから、放送におのぞみになったのでしょう。

4. でも権威づけ、などと言うことは仏教は無縁です

もちろんこのお話は、「権威」とか「威勢」が示されているものだと受け取ると、見当違いになります。もともと、世間のそういう事とは、馴染まないのが仏教なのです。もともと、仏教は世間の常識と真逆の事が「本当の真実です」といっていることが多いですから、このような出来事の表面だけを解釈しても本当の事は見つかりません。聖徳太子の言葉にも「世間虚仮 唯仏是真」(世間は頼りにならない虚仮のもの 唯だ仏陀とその悟りの内容が頼りになるものです、というような意味だと思います)とありますものね。

5. ではなぜ陛下は法然上人に「諡」を?

なぜ、50年に一度、諡が宮中からおくられるという習慣になっているか?という理由の方が大事だとも思います。それは、「いかなる人でも救われる道を仏教の中から見いだした人」だからです。この点においては、他にすぐれて尊いお坊様は沢山いらっしゃいましたが、法然上人だけなのです。

「法爾」という言葉は、「法(ほう)にして爾(しかり)」という事で、「何の作為も無い、自然の道理」というような意味の言葉です。法然上人の言葉にこんな言葉があります。

「法爾の道理という事あり。ほのお(炎)は高き(のぼり)、水はくだり(下)ぎまになが(流)る。菓子にすき(すっぱい)ものあり、あまきものあり。これみな自然法爾の道理なり。云々…」だれもが良く聞いて考えれば、絶対に否定出来ない事を「法爾」と言うのです。太陽は、必ず東から昇ります。西から昇

ることはまずあり得ないでしょう。地球は丸いです。現代人なら地球は四角だと本気で考える人はいないでしょう。これと同じように、自然に決まっている事を「法爾」というのです。

こういう物事は、あえて「権威づけ」をする必要はないのです。だまっていても、そうなるのですから。権威づけのためではないとすれば、何故、50年に一度の諡という習慣が続いているのでしょうか?それは恐らく、代々の陛下がその持てるお力をもって、ふさわしい人にふさわしい贈り名を、というお仕事についてベストをつくしましょう、というお気持ちによるものだと拝察するのです。

6. 知っているつもりで意外にあまり知らない法然上人

では、陛下でさえ、「新たに諡として大師号をおくりましょう」というようなお気持ちにさせる「法然上人」という方は、どんな方だったのでしょうか。どんな見解・お考えをもった方だったのでしょうか。何を発見して、世に知らしめようとしたのでしょうか。やはりこの事を考えるには、遠く「お釈迦様」にさかのぼらなければなりません。

7. もとより私の力は不十分ですが…仏教を共に学びたいのです。

仏教～仏様である仏陀釈尊のお伝えしたかったこと～をなるべくわかりやすく、正確に説明することになります。私はもとより学ぶべき事が尽きず、その任ではないと思いますが、力の続く限り色々な書物やすぐれた方々のご教示から学んだ出来るだけのことを皆様にお伝えしようと思っています。

この「善導寺寺報」では、こういうことを中心に、皆様にお伝えしようと思っています。

8. 「知らない」はまだいいけれど、「間違っただけ知っている～誤解～」は、とても危険。

ある事を知らないのは、そう困る事では無いと思います。それが必要だと解ったら「調べたり聞いたりして知ればいい」からです。東京駅に電車を使って行く方法を知らないからといって、別に生きていく上で困る事はありません。どうしても行く必要があると解ったら、調べて知ればいいからです。しかし「誤解」したまま「知っている」と思って、誤解を修正せずに家をでたら、必要であっても、希望通りに東京駅にはたどりつけません。お釈迦様は、こうおっしゃいます。「悩み苦しみの原因は、物事を「間違っただけ知っている」つまり「正しく知っていない」からですよ、と。つまり私たちは「正しく知っていない」のだから、要するに「知ってるつもりで全然知らない」つまり「無知」なのです、と仏様はおっしゃるのです。物事に対して「無知」だから、私たちは「悩み苦しみを勝手に作り出すのです、と。この無知を仏教用語で「無明」(文字通り物事に「明るくない」という意味に思っておいていいと思います)

9. まず仏教に対する誤解を見つけましょう。方法は簡単です。仏教に対する疑問を見いだせばいいのです。

まずは「仏教」～仏様の教え～を、どれほど私たちは誤解しているか、そしてどのくらい知っているか、感触を持って戴くために、「仏教」ということで誤解されやすく、現に誤解されている事と思われる問題を、まずは最初に取り上げる事

にしました。皆様も興味をもって読んで下さると思います。とても意外に思える事です。たとえばこんな事について、皆さんはどう思っていましたか？

10、**問題1「命には最高の価値がある？」**

私たちはよく世の中で、「生きることは素晴らしい。命というものには、なによりも代え難い最高の価値がある。」という考え方を聞くことがあります。きびしいようですが、仏教は、このような思考は何の役にも立たない。といいます。皆さん、「そんなバカな」と思いましたか？「何を置いても、まずは命のはずです。」と。もし、このように思ったとしたら、それは誤った、支離滅裂な思考です、と仏教は言うのです。これからその理由を言います。

11、**どうして戦争は起こるのでしょうか？人類は、この問いに答えを出したのでしょうか**

まず質問です。「生きることは素晴らしい。命というものには、なによりも代え難い最高の価値がある。」「何を置いても、まず命です」ならば、どうして人間は、戦争をするのですか？どうして人をあやめる人が出てくるのが絶えないのですか？この難問を解けますか？宗教の名のもとに、未だに争いは絶えません。戦争やテロ行為など、人をあやめようとするまでエスカレートしてしまうのが人類です。これはどうした事でしょうか？この事実には、どんな理由が隠されていますか？どなたか、きちんと答えられる方がいらっしゃるでしょうか？

12、お釈迦様は明確に答えを出して私たちに示されています。 仏教は、いとも明確に正しく答えます。それは、「生きることは素晴らしい。命というものには、なによりも代え難い最高の価値がある。」「何を置いても、まず命です」という思考が犯人なのです。と。

13、**勿論生命は大事です。**

「命はとるにたらないものだ」といっているのではありません。ここが、誤解されやすい所です。断じて「生命」を軽視しているのではありません。それどころか、お釈迦様は「あらゆるすべての生命を慈しむべきです」といっているのですから、こんなおかしい誤解は成り立ちません。

14、**「生きてることは素晴らしい」は、余計な思考かつ要注意??!!**

つまり、仏教はこう指摘するのです。もし私たちが「生きること・いきていること」が最高の価値である、と思考したならば、「生きるためにはどんな行為でもします。」という考え方に陥りませんか？と、「生きることは素晴らしい。命というものには、なによりも代え難い最高の価値がある。」「何を置いても、まず命です」という思考は、不完全かつきわめて支離滅裂な種々の思考に変化する可能性大なのです。「生きることが最高」と思うと、「自分が生きるためには他の人をあやめてもいい」「振り込め詐欺をしてもいい」「不正をして、他人に迷惑をかけてもいい」という思考にもつながってしまう可能性があるのです。それだけではありません。戦争があっても、不正があっても、「ああ、その当事者の人は生きるためだったのなら、しかたがないよね」という気持ちが働くことにもなります。これに付随して心に生まれる気持ちはすべて、「命というものには、なによりも代え難い最高の価値がある。」という思考が原因するのです。この思考は誤った思考です。

では、その逆の思考が正しいですか？「生きることは最低の価値」ですか？「命に尊厳はない」のですか？皆さんお解りのとおり、これも明らかにおかしいでしょう？

15、**生きてる事は最高？最低？その中間？**

仏教から導かれる答えは、「生命・命・生きること・生きてる事は、価値の上下を置くようなものではありません。」ということなのです。「生きてる事には最高の価値がある」だとか、逆に「寿命を全うする前に命を捨ててもよい」などと、いい加減な事を言っている場合ですか？価値を置くべき事は、別にあるのではないのですか？と仏教はいいいます。いいかげんに、目を覚ましなさい、と。つまり、「生命・命・生きること・生きてる事」は、自明のことです。「私は今こうして生きています」という事は事実ありのままのことで、生きて

私たちが生きているということにとやかく価値をきめてかかるような事ではない。というのが答えです。核心を言えば「価値を置くことができるのは、命そのものではなく、"どう生きるか、どう行為するか"という"生き方"にあります」、と仏教は言います。私たちは「命そのもの」ですから、「私たち自身が私たち自身を「最高の価値だ」とか「どうなったっていいや」といえる筋合いのものではないのです。「命自身が自分の命に対してでも他の命に対してでも「最高の価値があります。」とか「価値などありません」とかどうして言えますか？

15、**どんな行為も「最高の価値あるもの」の下にひれ伏す**

この思考は、かなりおかしいです。エスカレートすれば、戦争まで起こしかねないのですから。生きることに価値を置いたら、あまつさへその価値は最高だ、と考えたら、「最高の価値」をまもるためには、何でもしなくてはいけなくなるでしょう？人が生きるということは、最高の価値なのだから、その人が生きるためであるなら、言い換えれば最高の価値を保つためには、他人の命を奪ってもしかたがないかも...という、わけのわからない話になってしまいます。だから、「どう生きるか」という行為の選択にこそ、価値は色々あります。と、考えるべきなのです。これが仏教的な答えです。

16、**「どう生きるか」は「どんな行為を選択するか」です**

たとえば自分の部屋でゴロゴロしていても、微動だにしないでじっとしている訳ではありませんでしょう？「さて、次はなにをしようか」と意識的にも無意識にも、行動をしましょう。トイレにいったり、余り物のごはんをレンジでチンして納豆ごはんを食べたり、勉強したり、本を読んだり、テレビを見たり、趣味で音楽を聴いたり、電話で人とはなしたり...。生活のさまざまな行為はその時その時の選択です。朝起きた時から、キッチンと決まっている訳ではないですよ。自分の意志で何でも選択できるでしょう？

17、**生きているからこそ～**

この「選択」のしかた、「何をするのか、ひいては、どういう生き方をするのか、という事には、大いに価値の上下があります。と、仏教は、こう言っていると思います。本当に些細な、なんということもない行為や、最高の行為、最低の行為など、このように「生き方」にこそ価値を付ける思考をするべきなのです。だから「命」そのものについては、生命あるものはたとえ思考レベルであっても、絶対にああだこうだともてあそぶ権利を持ち合わせていないのです。なぜなら、「生きている」からこそ、そういう変な思考もできるからです。「生きている」という事実のほうが、先に立つ土台です。踏み台がなくなったら、妥当な思考も、このような変な思考も成り立たないのです。「生きている」から思考することが出来るんですから。

18、**生命そのものをいい、わるいといつたって始まらない**

だから、生命そのものをいい、わるいといつたって始まらないのです。現実にも実のある思考が出来るのは「どのように生きるか」という行為の範囲だけです。私たちが生きていく具体的方法、つまり「行為」について、「ああだこうだ」と正邪・善悪・価値を考えるべきです。こう思考するのが、仏教徒だと思えます。

19、**そうすると、どんなことになる？～**

みんな、それぞれの立場・能力に応じたなすべき行為があるから、それをするだけです。

救急救命医の方が、命を助けようとしているのは、「助ける行為が、その時自分の能力で出来る、選択すべき最高の仕事・行為だから」なのです。

仏教はこう言います。「どう生きるか-どう行為するか」という思考で、その時その時の私たちに与えられた条件のなかで、可能な限りの中する、妥当な行為を選択しなさい。と。

20、**それぞれの立場で為すべき行為はとても簡単。**

戦争はいけませんから、そうしなければならなくなる条件が揃う前に、戦争をしなくてすむ条件をととのえる行為をそれぞれの人々の管轄範囲の中で、選択し、積み重ねていきなさい、という事になります。政治家は政治家の仕事の範囲の中

で、市民は市民の仕事の範囲の中で。ここまでの事だったら、いとも簡単にはずです。変な考えさえ持たなければ。仕事というのは、その人にとって自分の命を保つ事よりもシンプルで簡単でなければ、正しく遂行出来ません。電車の運転手さんが、運転席でお仕事にひびくような異常な緊張感を覚えていたら、私たちは不安で電車にのってられません。お医者さんが手術をするときでも、学校の先生が授業をするときでも、八百屋さんが、野菜を仕入れて私たちに提供するときでも。なんでもかんでもそうでしょう?だから、兵隊さんというのは、とてもきつい仕事、という事になりますね。仏陀のすすめに従えば、いざとなったら相手の生命を侵害せず、こちらの生命を守らなくてはいけないという行為を選択しなければならないのですから。人間にとって不可能に近い話だと思います。私などはなにかその為のいい道具があればいいのと思いたくなります。

21、戦争に巻き込まれなかった市民の行動の稀な例

歴史上市民の人々が、仏教の教えをもとに、戦わなくて済んだ事例が一つだけあるので、ご参考までにお伝えします。第二次大戦の頃、スリランカ(当時はセイロンという国でした。)での事実です。スリランカの人々は、筋金入りの仏教徒が多い国です。イギリスの兵隊さんから、「私たちと一緒に、日本と戦いませんか?」と迫られた時の事です。正確に言えば、スリランカのある地方で起こった事です。その地方では、大人も子供もみんな異口同音の様に一つの意味のことで応じたそうです。その言葉とは、「**私たちは、殺されても武器は持ちません**」...大変な言葉でしょう?誰に呼びかけても、命令口調でいっても、堂々と、胸を張って返ってくる言葉が、「**私たちは、殺されても武器は持ちません**」なのです。大変勇気が要りますが、市民レベルの最後の防波堤はこれになるのです。これで、勿論一人も命を落とさずに、軍事施設の下働きで、おわたったそうです。市民の出来る領域で、本気でやろうと思ったらこういうことなのだなあ、と思いました。ものすごく珍しい、国が戦いに巻き込まれなかった例だと思います。だから、政治という仕事も、大変きつい仕事だと思います。たとえば、3.11の震災と原発事故の時の調査反省が明らかになってくればくるほど、こうすればよかったあすればよかったと批判がありますが、「その要求は、人間わざを超えてませんか?」というのも結構あるはずだと思います。

22、法に触れるような犯罪は、みんな「これをしなければ私は生られません」という思考から

それから、たとえば詐欺のような不正行為の被害者になったとしたら、やはりとても嫌な気持ちになるでしょう?それどころか、物心両面にわたって大変な迷惑を被ります。その詐欺をした人は、どんな思考でそのような犯罪をしたのでしょうか?「生きることはなによりも価値がある」という思考からです。だから、苦勞してでも生活費を得ようとしなくて、詐欺という犯罪に走ったのです。「何よりも価値がある"生きる"ということのためだから何をしてもいいと思います。私は人を欺して金銭を得る、という方法を選びました」という思考なんです。だから。「命というものには、なによりも代え難い最高の価値がある。」という思考は、とんでもなく支離滅裂な思考を引き起こす可能性のあるものなのです。

22、命は命。ただそれだけ

命に価値付けは出来ません。価値付けすべきなのは、命を土台にした、「生き方」の方です。私たちは、だまっていたって生きていてはありませんか。「生きていて」ということ自体は、一定期間自然に生きていて、寿命がきたら死ぬ、ただそれだけの事です。良くわからないのに強がって空気で「最高だ」という筋合いのものではありません。そういう意味で私たちは「生かされている」と考えても良いと思います。

23、変な思考がはびこっている?

今は、政治の世界でも、教育現場でも、企業倫理の世界でも、生命倫理の世界でも、科学の世界でも、あちらこちらにこの化け物のような「生命そのものに最高の価値をつけたがる」雰囲気、手ぐすねをひいて、私たちの頭を支配しようと機を伺っているように感じてなりません。私たちは、完璧ではありませんから不注意から過ちを犯すこともあります。お

かしいのは、「このくらいの悪いことをしなければ、私は生きていけない」という変な思考や感性です。この思いにエサをあたえつづけているのが、「生きていてはなによりも価値がある偉いことである」という、考えすぎの思考だと思います。

24、ではお釈迦様は、どう提案しているの?

今回お話しした事の大部分は上座仏教のお坊様におすわって、紹介したのですが、まとめれば、「どう生きるか、どう行為するか」と考えて、自分の領域の中で、今すべきベストの事を邪魔な妄想が出てきても相手にしないで、正しい筋を通してやってみる。という事になると思います。

実は、このような余計な思考をやめる方法までお釈迦様は説いておられます。次号、「夏のお盆号」でお話しします。

お知らせ

春のお彼岸がもうすぐです。別紙のご案内に基づいて、お参り下さい。

善導寺での催しご案内 平成24年度

◎毎月第一土曜日午後二時～三時半 写経の会～4月7日(土)から始めます。於;本堂

写経の功德は、「心が落ち着く」「お経を後代に伝えるそれなりの作業になる」など色々あると思います。よろしかったらどうぞ。

◎毎月第三土曜日午後二時～三時 詠唱の集い

～4月17日(土)から始めます。

歌を通して法然上人の世界に触れることが出来ます
歌の好きな方は、出席なさってみても損はありません。

◎毎月第四土曜日午後二時～三時半 お念仏の会

～4月28日(土)から始めます。

正式には「別時念仏会(べつじねんぶつえ)」と云います。呼べば答える阿弥陀様とのひとときです。

◎四月八日(日) 「灌仏会」～花祭り～を行おうと思っ

ています。
お釈迦様の誕生をお祝いします。甘茶やおみあげ、外国のお坊様のちょっと変わった法話CDの鑑賞もあります。お子様づれでどうぞ。

いずれも動きやすい、気候に合った暖かさの服装でご出席下さい。ただ、お袈裟(輪袈裟～「わげさ」と云います)とお数珠を持っている方は、ご持参下さい。(無くても大丈夫です)

毎月の集いは、住職、出席の方々のご都合・ご希望に合わせて次の回がお休みになる事もあります。

(その際はお帰りの時にお伝えします。又、日程にご希望があれば、気軽にご相談下さい)

休憩時間には、茶菓のご用意がありますが、セルフサービスでお願いします。

興味のある集いがあったら、お気軽にお越し下さい。

